



箱根の温泉保養所「藤山荘」

FUJIKURA HISTORY



社内報第1号

自立への道: 好不況の波が、目覚ましい技術の新展開と、競争激化による営業網の強化を促進する。一方では福利厚生充実が図られ、様々な社内制度の制定、保養所も開設される。昭和29年には社内報を創刊し、社内体制が整ってゆく。

Shaping the future with "Tsunagu" Technology.

FUJIKURA NEWS 2018 No.449 12



超多心光ケーブル向けクロージャを販売開始

当社は、超多心光ケーブル向けクロージャを販売開始いたしました。収容可能な最大光ファイバ心数は3,456心と超多心でありながら、光ファイバ収容トレーのサイズやクロージャ内の配線ルートを工夫することにより可能な限り小型化した製品となっております。超多心光ケーブル向けにはポット型・インライン型(直線接続)の2タイプをラインナップとして揃えてあります。狭いマンホール内の設置や海外ではよく目にする電柱への据え付けなど配線環境に合わせた設置が可能です。

近年、データセンタの増設に伴い、超多心光ケーブルの布設が活況です。当社でも、3,456心Wrapping Tube Cable® (WTC®)や6,912心WTCといった超多心光ケーブルをリ

リースしています。光ケーブルの多心化が進む中、これら超多心光ケーブルを布設、接続、分岐するため、超多心光ケーブル用クロージャは必要不可欠です。当社は3,456心に留まらずさらに多心の6,912心向けクロージャも鋭意開発中です。200μm素線による12心間欠固定型光ファイバリボンSpider Web Ribbon®(SWR®)を前提に、3,456心クロージャと同等サイズで6,912心の光ファイバを収容するため、多心専用細径融着補強材の採用、新コンセプトのファイバ保護チューブなどの開発を進めております。今後も超多心光ケーブル接続や成端に対応する先進的な製品の開発に邁進いたします。

2018
12

● ポット型クロージャ(FSCO-BUW)



サイズ	H700 mm × φ285 mm
重量	7 kg
収容可能なケーブル外径	10 - 30 mm
収容可能なケーブル本数	最大8本
融着トレイ	24トレイ

● インライン型(直線接続)クロージャ(FSCO-TN-HA)



サイズ	H250 mm × L620 mm × W300 mm
重量	11 kg
収容可能なケーブル外径	8 - 33 mm
収容可能なケーブル本数	最大6本
融着トレイ	24トレイ

EL
electronics

増幅温度補償済み差圧センサ AD2シリーズ

当社は、差圧計測用センサの新製品AD2シリーズを開発し、2019年春より量産を開始いたします。本製品は、2つの圧力導入口を持ち、お客様の任意の圧力値を基準とした計測が可能であり、産業機器や民生機器など用途に応じた様々なアプリケーションにお使い頂けます。またセンサチップと信号処理ICを組み合わせ、当社が持つMEMS技術、組立技術、パッケージング技術を生かすことにより高精度で低消費電力、かつ耐環境性、高耐圧性に優れた圧力センサを実現しました。さらに外形、ピン配置ともに当社従来製品と互換性があり、既存実装基板を設計変

更なしで継続利用できるため、置き換えも容易です。当社は、環境に配慮した高精度なセンサを継続的に新規開発することで、今後も社会に貢献してまいります。



新製品 (AD2シリーズ)

✉ センサビジネスユニット

sensor@jp.fujikura.com

EX
hibition
展示会情報

ドイツIZB展示会出展

当社は、10月16日～18日にドイツのヴォルフスブルグで開催された国際自動車部品サプライヤ展 (IZB) に出展しました。IZBは、2年毎に開催されるヴォルフスブルグ市及びVW社が主催の世界最大級の国際自動車部品展示会で、当社グループは、Fujikura Automotive Europe GmbHが毎回ブースを出展しております。今回は、アクリルカーをブースの目玉に据え、フジクラの次世代自動車向けソリューションとして、次世代ワイヤハーネスアーキテクチャや高電圧部品、AOC (Active Optical Cable) を用いた高速大容量データバックボーン、FPCモジュール、ヒートパイプモジュール、乗員検知AIカメラなどを搭載し、次世代技術の提案を行いました。

多くの欧州主要顧客と活発な議論を行うことができ、大変有意義なイベントとなりました。「100年に一度」と言われる大転換期にむけ、オールフジクラで、将来の自動車事業の発展と進化の柱となる新製品を提案していきます。



フジクラ関係者 (フジクラブース前にて)

フジクラブースでの
寿司イベント

✉ 自動車電装カンパニー

automotive@jp.fujikura.com



フジクラグループ統合報告書 2018年度版を公開

当社グループは、昨年度のCSR活動を取りまとめた「フジクラグループ統合報告書2018年度版」を公開しました。統合報告書とは、当社グループのビジネスモデルや財務情報、およびESG(環境・社会・ガバナンス)活動を取りまとめたもので、株主・投資家やお客様をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に向けて作成したものです。

今回の報告書では、社長のトップメッセージを大幅に増やしたほか、ビジネスモデルを通じて生み出す社会的価値を図示した「価値創造モデル」を初めて掲載しました。また昨今注目されている国連持続可能な開発目標(SDGs)や、共通価値の創造(CSV)への取り組みについても掲載するなど、ステークホルダーの皆様の要求に応えるべく、内容を刷新しました。

統合報告書は、冊子版(PDF版あり)およびHTML版の2種類で公開しています。ぜひご覧いただくとともに、今後も当社グループの持続的な成長と社会課題の解決に向けた取り組みに、ご期待ください。

▶ URL: http://www.fujikura.co.jp/resource/pdf/csr2018_all.pdf



フジクラグループ
統合報告書2018
トップメッセージ

✉ CSR推進室 fjk.csr@jp.fujikura.com



2018年も福島県南相馬市で 被災地支援ボランティア活動を実施

当社グループは、2018年10月26～27日に、福島県南相馬市で被災地支援ボランティア活動を行いました。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震および福島第一原子力発電所事故から7年半が経過しました。近年はボランティアに訪れる人数も減り、福島復興の風化も懸念されています。当社グループでは、2014年から毎年福島ボランティア活動を行っており、4回目となる今回は、これまでの最多となる20名の社員が参加しました。

NPO法人南相馬市ボランティア活動センターご協力のもと、ため池付近の斜面の草刈りと放置民家内の草刈りを行いました。

ボランティア活動は、福島復興にむけた小さな一歩ですが、一日も早い復興を望む方々の思いに応えるためにも、

当社グループは被災地支援ボランティア活動を継続していきます。



斜面の草刈り



参加者の集合写真

✉ CSR推進室 fjk.csr@jp.fujikura.com

R&D
研究開発

大容量通信の4コア・3モード光ファイバの開発

当社は3モード伝送が可能なコアを4つ持つ外径160 μ mの光ファイバを開発しました。国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT) 殿は、この光ファイバを用いた大容量伝送実験に成功し、その結果を9月にイタリア・ローマで開催されたヨーロッパ最大の光通信に関する国際学会ECOC (European Conference on Optical Communication) 2018にて発表しました。この論文^{*1}は非常に高い評価を得て、ポストデッドライン論文^{*2}に採択されました。

現在、データ通信量は世界的に増大を続けており、近い将来、既存の光ファイバを用いた光伝送システムでは伝送容量限界が顕在化します。この限界を超える次世代の光ファイバ技術として、1本の光ファイバに複数のモードが伝搬可

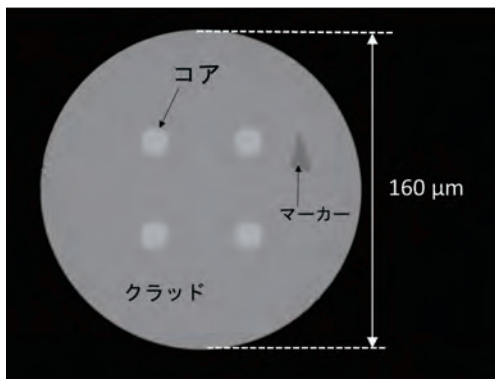
能なコアを複数持つ、数モードマルチコアファイバ (Few-mode Multicore Fiber: FM-MCF) などによる空間多重伝送が多くの機関で研究されています。このような背景の中、当社は以前より空間多重伝送用光ファイバの研究開発を行っております。これまで毎秒1ペタビット以上の伝送容量を実現したFM-MCFは、できるだけ多くのコアを収容するために外径(ガラス部分の径)が大きいものでした。しかし、外径が大きい光ファイバは、長期信頼性の低下や製造性の悪化など数多くの課題があります。今回、国立大学法人北海道大学殿が設計を行い、当社が作製した光ファイバは、4コア・3モードであり、伝送チャネル数として12となります。外径は既存光ファイバの125 μ mに近い160 μ mに抑えているため、ケーブル化や既存光ファイバとの接続が行いやすくなります。このFM-MCFを用いて、NICT殿は毎秒1.2ペタビットの大容量伝送実験に成功しました。

当社は、今後のブロードバンドサービスの発展を支える将来の大容量光ネットワークの実現に向けた研究開発を行ってまいります。

^{*1} Ruben S. Lu's et al., ECOC 2018, Th3B.3 (2018)

^{*2} 一般論文投稿締め切り後(ポストデッドライン)に受け付けられる論文で、極めて高い評価を受けた研究成果のみが報告の機会を得ることができる。

● 4コア・3モード光ファイバの断面写真



光ファイバ事業部

applied-optics@jp.fujikura.com

Fujikura 株式会社フジクラ Fujikura Ltd.

“つなぐ”テクノロジー 製品ニュース No.449
発行:2018年12月 編集兼発行責任者:森本 朋治
〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1
<http://www.fujikura.co.jp>

営業企画部 TEL:03-5606-1092
関西支店 TEL:06-6364-0373
中部支店 TEL:052-212-1880
東北ブロック TEL:022-266-3344
九州ブロック TEL:092-291-6126

